

平安京右京六条二坊三・六・十一町の調査

(財)京都市埋蔵文化財研究所 小檜山 一良

1 はじめに

本調査は、平成18年度から継続して実施した国道9号線・五条通の拡幅事業に伴う発掘調査である。調査地は、京都市下京区西七条東御前田町・御前田町・赤社町、右京区西院南高田町に位置し、平安京右京六条二坊三・六・十一町にあたる。今まで第4次にわたる調査を実施し、全体で、およそ5,500㎡を調査した。

これまでこの周辺では、五条七本松の大阪ガス跡地での貴族邸宅跡など平安時代前期を中心とした遺構や遺物を多く発見している。今回も、平安時代前期の遺構を良好に検出した。しかし、平安時代中期以降の遺構は極めて少なく、以後は中世・近世を通じて耕作地としての利用が続いたことがわかった。

また、調査期間中に報道発表を行うとともに、2回の現地説明会を開催し、調査成果を広く公開した。また、中学生チャレンジ体験を受け入れ、普及啓発事業にも取り組んでいます。

今回は、主に平安時代前期の宅地内の遺構と、西堀川小路の構造について紹介する。

2 検出した遺構

東から、3次調査2区、1次調査、4次調査、3次調査1区、2次調査2区、2次調査1区の6箇所を調査した。遺構は大まかに、中近世・平安時代前期・平安京造営以前の3期に分けられる。

3次調査2区

右京六条二坊三町の北東部に当たる。室町時代から江戸時代の遺構は、平安時代末から鎌倉時代初頭の整地層上面で検出した。平安時代以前の遺構は、地山上面で検出した。検出した遺構は、室町時代から江戸時代の耕作溝、平安時代前期の掘立柱建物・溝・土坑・落込みなどである。それ以外には、古墳時代後期の自然流路がある。

第1面の遺構(図5) 室町時代から江戸時代の遺構には、多くの耕作溝があり、大半は東西方向に延びる。耕作溝には近代以降のものもあるが、遺物の検討により江戸時代以前に限定できるものを遺構とした。平安時代末から鎌倉時代初頭の遺構は、南部一帯で整地層を検出した。この時期に大規模な整地が行われたとみられる。

第2面の遺構(図6) 平安時代前期の遺構には、掘立柱建物7棟・溝3条・埋納土坑6基・土坑・落込みなどがある。宅地内の建物配置が3期にわたることがわかった。柱抜き取り穴に、土師器皿・

杯・甕・竈、黒色土器・杯・甕、須恵器壺・甕などの土器類や瓦が埋納され、貞観永寶も納められていた。柱穴にはヒノキ材の柱根が遺存するものもある。

第3面の遺構（図7）古墳時代後期の遺構には、南部に東西方向の流路がある。平安時代初期まで、流れは続いていた。

1次調査

右京六条二坊三町の北西部に当たる。検出した主な遺構には室町時代から江戸時代の耕作関連遺構、平安時代前期の柵・溝・2時期の池などがある。それ以外には、古墳時代と推定される溝・土坑などがある。

第1a面の遺構（図12）この面で検出した遺構は、室町時代から江戸時代の溝、柵などである。小礫を溝内に充填する暗渠や溝の内側に杭を打ち込んで護岸する水路がある。緩やかな傾斜のあった旧地表面をひな壇状に削平し、耕作地を造成したとみられる。東部の下層で、溝を検出している。

第2a面の遺構（図14）平安時代前期の遺構群である。中部北側には、黄褐色系粘質土層の広がりがあり、この部分に大型の土取り跡が多数存在する。東部で南北方向の溝を2条検出した。溝の西側では、多数の柱穴を検出した。南部では池239を検出した。北岸に近い位置で、石を積んで造成した中島を検出した。

第2b面の遺構（図15）池239を掘り下げて、池252を検出した。池の北岸は石組で護岸している。池内東側の泉を水源とする。

第2c面の遺構（図15）平安時代前期の整地層253を取り外した面である。東部を北から南に流れる流路254がある。古墳時代後期の流路跡であり、この時期に埋められた。

4次調査

右京六条二坊六町の北東隅に当たる。検出した主な遺構には、江戸時代の耕作関連の溝、平安時代前期の掘立柱建物・柵・溝などがある。それ以外には、古墳時代と推定される土坑、縄文時代晩期の落込み遺構がある。

第1面の遺構（図19）室町時代から江戸時代の耕作に関連する遺構がある。南北約25mにおよぶ溝1を始めに、南北方向の溝が多い。

第2面の遺構（図20）平安時代前期の遺構群である。掘立柱建物2棟、南北方向の柵5条、東西方向の溝2条、南北方向の溝1条などがある。宅地内は2時期の変遷があるとみられる。

第3面の遺構（図21）弥生時代から古墳時代の遺構群である。南部と北部に不定形の土坑群が多数展開する。

第4面の遺構（図22）縄文時代晩期の遺構である。南西部に落込み117がある。

3次調査1区

右京六条二坊六町の北東部に当たる。検出した主な遺構には、江戸時代の耕作関連の溝、平安時

代前期の掘立柱建物・溝・土坑などがある。それ以外には、古墳時代と推定される溝・土坑などである。

第1面の遺構（図27）江戸時代の遺構には、耕作溝がある。南北方向の溝が多い。各溝からは平安時代から江戸時代の遺物の小片が出土した。

第2面の遺構（図28）平安時代前期の遺構には、掘立柱建物・東西方向および南北方向の溝・通路・土坑などがある。宅地内は2時期の変遷があるとみられる。

第3面の遺構（図29）古墳時代の遺構は、北部で溝37や土坑94～134を検出した。弥生時代の遺構は、土坑92を検出した。弥生土器の壺底部が出土した。

2次調査2区

右京六条二坊六町の北西部に当たる。検出した遺構は、江戸時代後半の耕作溝、平安時代前期の建物・柱列・溝・井戸・土坑など、弥生時代～古墳時代にかけての溝・土坑などである。調査では江戸時代後半の遺構を第1面とし、平安時代前期、及びそれ以前の遺構を第2面とした。

第1面の遺構（図34）江戸時代後期の遺構には、耕作に伴う溝がある。

第2面の遺構（図35）平安時代前期の宅地内施設に関連するものには、掘立柱建物7棟、柵1条、井戸2基、東西方向溝2条、南北方向の溝1条などがある。宅地内は2時期の変遷があるとみられる。弥生時代～古墳時代にかけての遺構には溝・土坑などがある。

2次調査1区

右京六条二坊六町の北西隅から西堀川小路、十一町の北東端に当たる。室町時代以降の溝・杭跡・土坑など、平安時代前期の街路に関連する遺構と宅地内施設に関連する遺構、古墳時代の落込みなどである。

第1面の遺構（図36）室町時代以降の遺構は、溝・杭跡・土坑などがある。

第2面の遺構（図37）平安時代前期の街路に関連する遺構では、西堀川小路の東築地・東側溝・東道路・西堀川など、宅地内施設に関連する遺構では、六町内の築地内溝・築地・建物跡・土坑などである。それ以外には、古墳時代の落込みがある。

3 出土した遺物

縄文時代 中期から晩期の土器がある。晩期のものが多く深鉢形のものが多い。石器も少量出土している。石鏃・鍬形石製品がある。

弥生時代 壺がある。底部の破片で少量である。石器片も少量出土している。

古墳時代 土師器と須恵器がある。土師器は前期の器台や甕がある。須恵器には後期の杯がある。ともに少量である。

平安時代 土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器・輸入陶磁器、瓦類、石製品、木製品など多彩な遺物がある。緑釉陶器には京都・美濃・東海・長門などの産地からの製品がある。輸入陶磁器には、白磁・青磁・黄釉褐彩の碗や水注などがある。須恵器の風字硯や円面硯がある。土製品には土馬がある。木製品には、櫛、曲物、小舟、杭などがある。石製品には乳白色系の石帯丸軋がある。銭貨には皇朝十二銭の内、隆平永宝(796年初鑄)・貞観永宝(870年初鑄)・延喜通寶(907年初鑄)がある。

鎌倉・室町時代 土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入銭貨などが少量ある。

江戸時代 土師器、焼締陶器、施釉陶器、磁器などが少量ある。

明治時代以降 陶磁器類が少量ある。

4 まとめ

3次2区にみられるように古墳時代以来の自然地形を平坦に整地して、宅地化したのは9世紀の半ばであった。平安京造営から約半世紀は土地利用されていなかったとみられる。9世紀の半ばに建てられた建物は、後半には建て替えが多くみられる。さらに末期には小径により新たな区分がなされる。しかし、10世紀の初頭に入ると宅地としての利用はされなくなることがわかった。室町時代から江戸時代には耕作地として利用されており、その状況は近代まで続いていた。

5 西堀川小路に関して

平安京には、東西に二つの堀川小路が造営されたが、今回は西の堀川小路を発掘調査した。小路は幅四丈とされているが、この堀川小路は中央部に堀川が流れているために、大路と同規模の八丈の幅となっていたことがわかっている。これまでの西堀川の調査例と合わせてここに調査成果を紹介する。

今回は、右京六条二坊内で平安時代前期の西堀川小路の東築地・東側溝・東道路・西堀川を検出した。

東築地 南北方向の塀 250。検出した位置から西堀川小路の東築地とみられる。

東側溝 南北方向の溝 223。幅約 1.5m、深さは 0.2m。底部のみが残っている。西堀川小路の東側溝とみられる。ほぼ推定位置で検出している。

東道路 東側溝 223 西側の平坦部分である。東西幅は約 6 m ある。西側約 3 m は緩やかに西側に傾斜している。路面敷は残っていない。西堀川小路の東道路とみられる。

西堀川 南北方向の川 170。幅約 14～16m、深さは約 1.1m。南北に約 25m を検出した。東肩部は、ほぼ推定位置で検出した。東岸の川底では、護岸のために打ち込んだ杭および杭抜き取り穴を数列検出した。西肩部は、大きく西側に拡がり、小路西築地の推定位置付近で検出した。川の西肩

は流れにより大きくえぐり取られており、川底には砂礫が厚く堆積している。下層は褐色系の砂礫で10世紀初頭の遺物を包含する。上層には12世紀代の遺物を含む黒色系の泥土が厚く堆積している。南側の川底部で延喜通寶が10枚まとまって出土した。

- ・平安時代前期の西堀川小路の東側溝・東道路部・西堀川などの遺構を検出した。
- ・五条や七条での調査では検出できなかった西堀川の西肩を検出できた。六条の北部では西堀川は西肩が大きく西側に拡がり、西道路部は流失していることが判明した。川の激しい流れにより西肩が損壊していったとみられる。一方、西肩付近で杭や杭穴を確認できたことから、護岸施設を補修しながら川の流れを制御していた状況も窺える。
- ・西堀川東肩の護岸のための杭は、三条や五条の例と同様の傾きで打ち込まれている。杭の形状は2種類あり、文献との対応が捉えられそうである。
- ・西堀川は、10世紀初頭に流れが止まり、12世紀代にはほぼ埋没していたことが判明した。周辺の調査でも道路や宅地が10世紀初頭に廃絶している例が多くみられている。

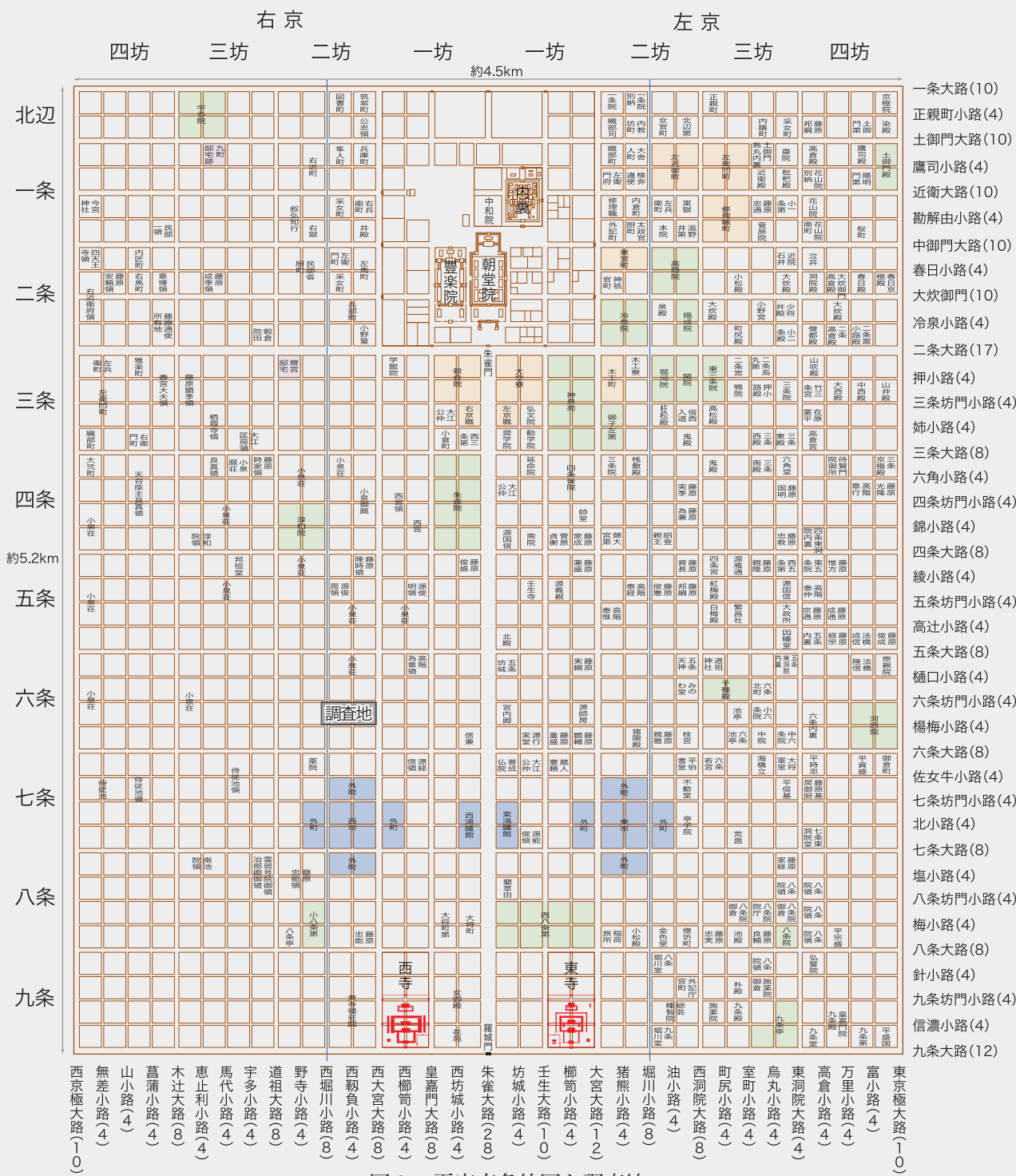


図1. 平安京条坊図と調査地

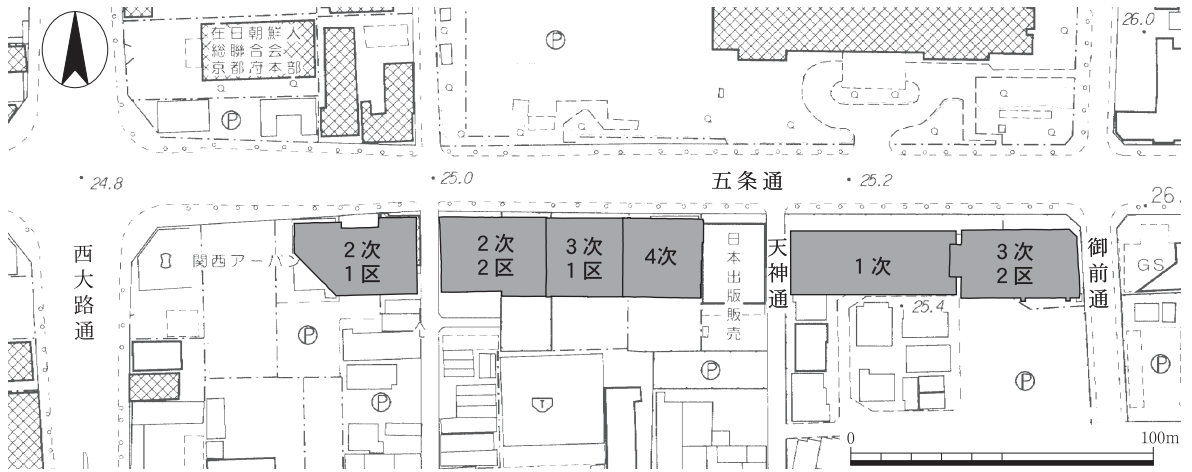


図2. 調査位置図 (1 : 2,500)

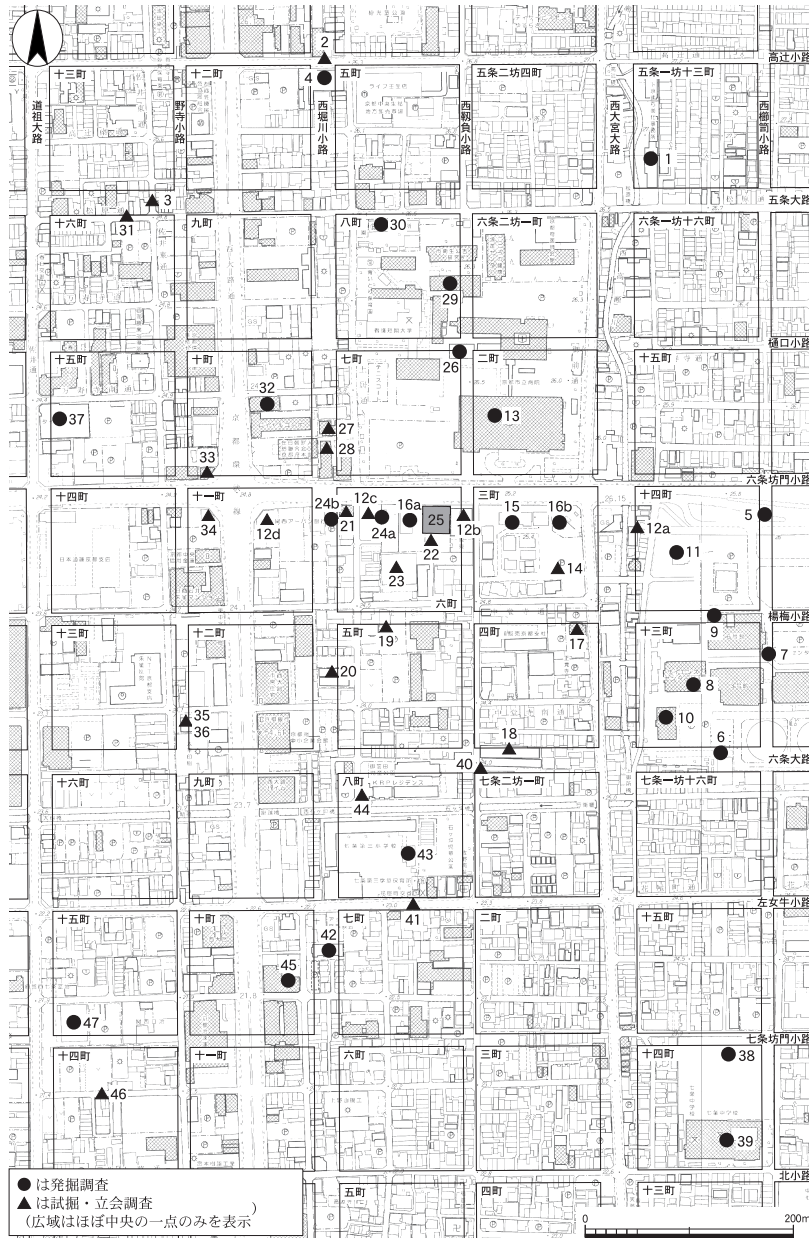


図3. 周辺既往調査位置図

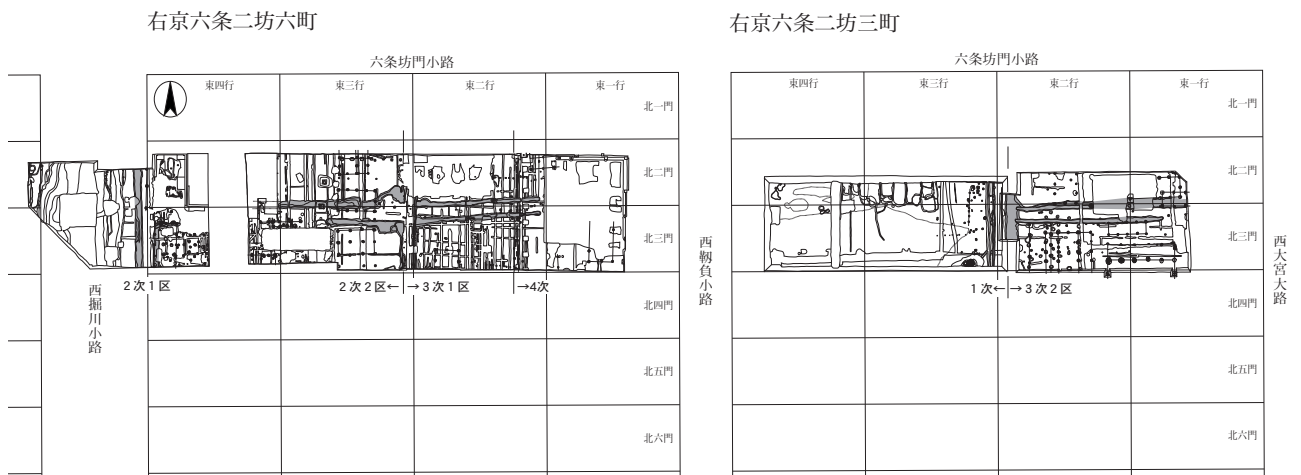


図4. 四行八門における調査区

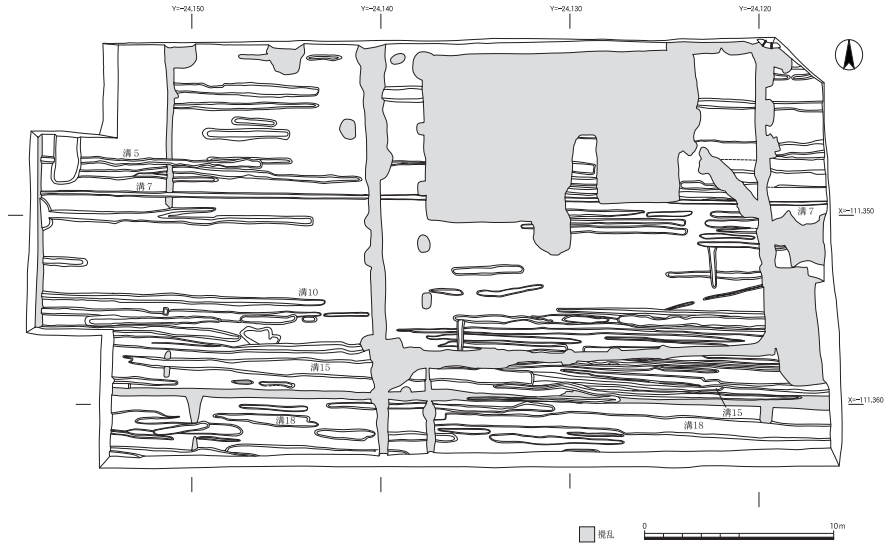


图 5. 3次調査2区第1面平面図

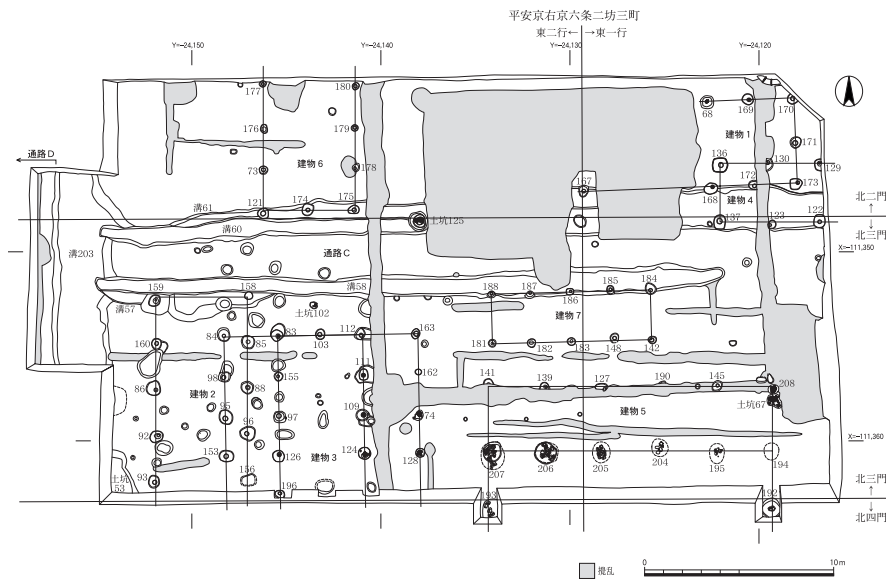


图 6. 3次調査2区第2面平面図

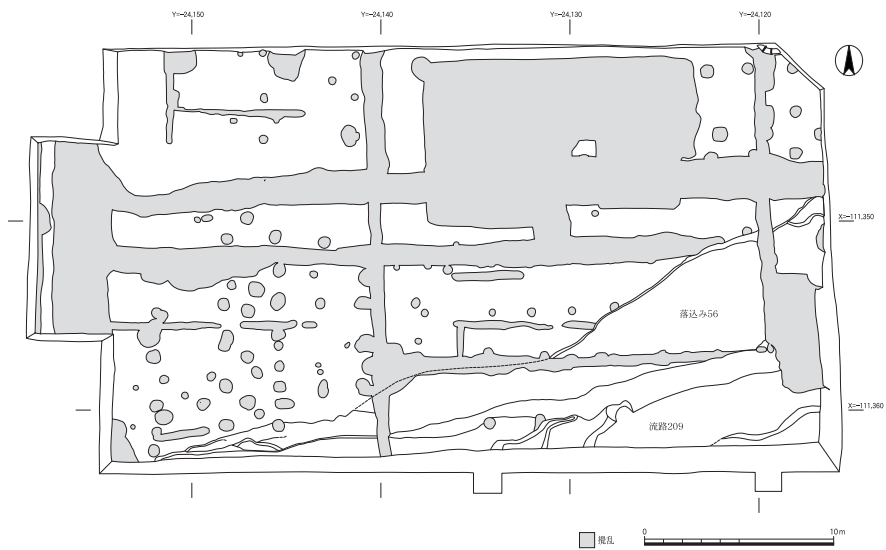


图 7. 3次調査2区第3面平面図

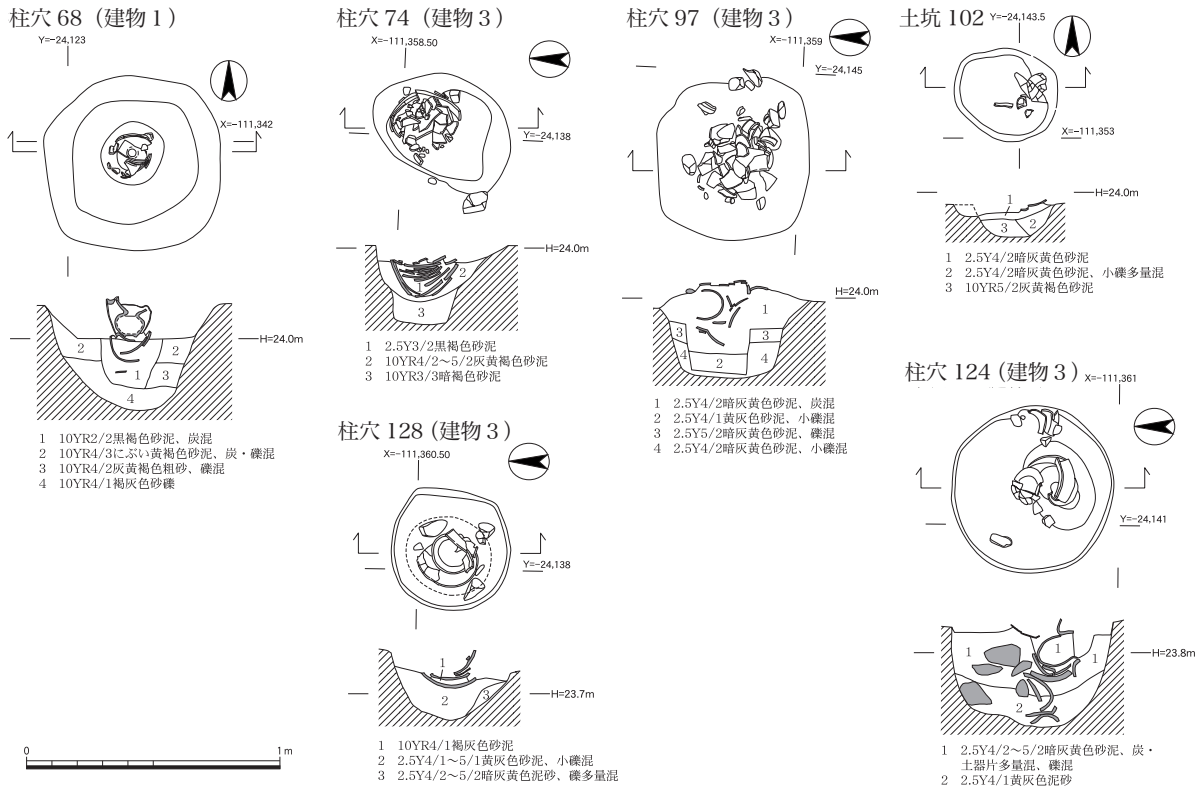


图 8. 3次調査 2 区埋納遺構実測図

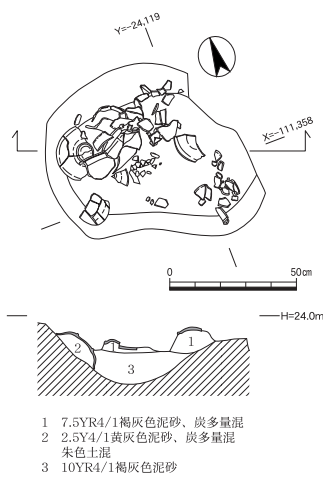
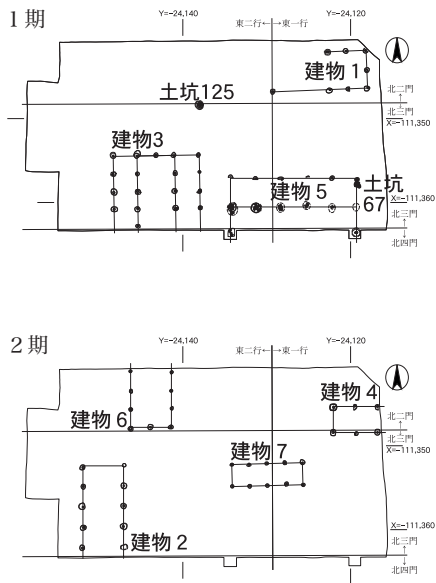


图 9. 3次調査 2 区
土坑 67 実測図

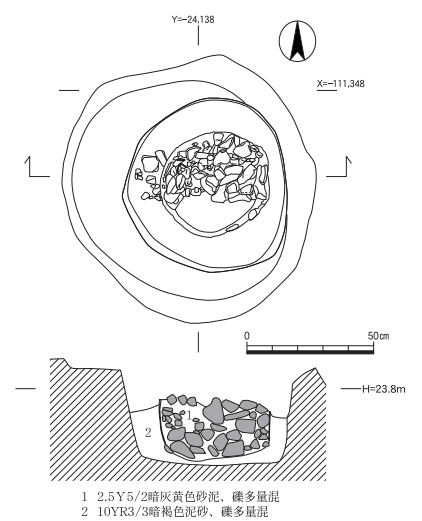


图 10. 3次調査 2 区
土坑 125 実測図

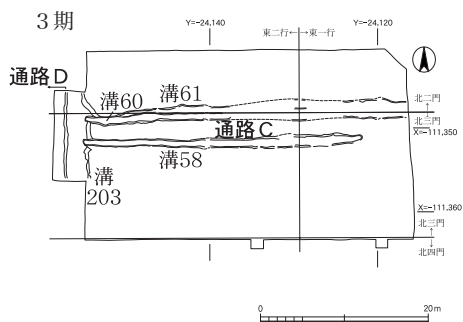


图 11. 3次調査 2 区第 2 面遺構変遷図

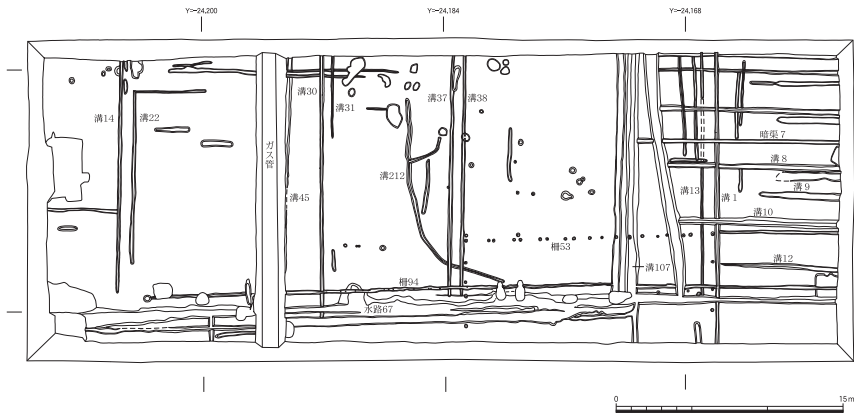


図 12. 1次調査第1 a面平面図

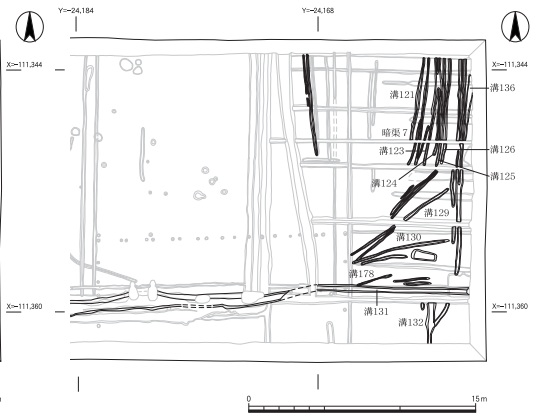


図 13. 1次調査第1 b面平面図

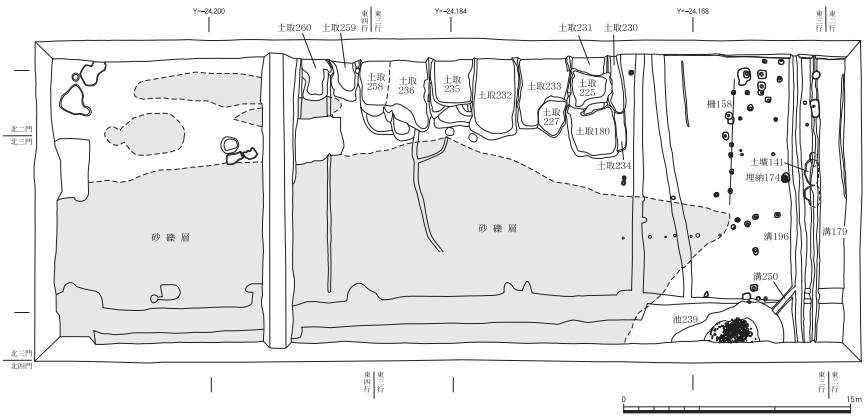


図 14. 1次調査第2 a面平面図

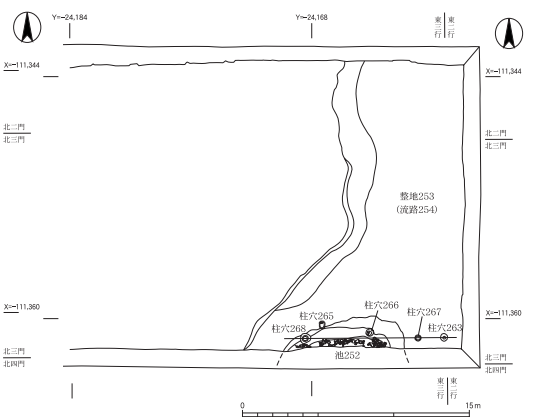
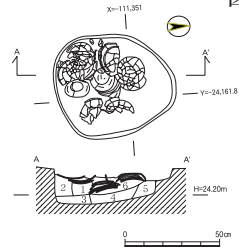
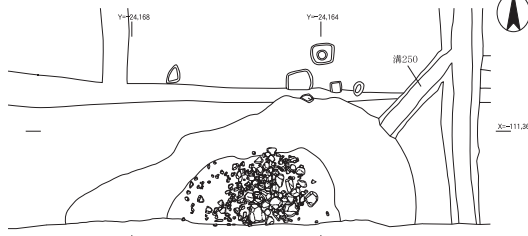


図 15. 1次調査第2 b・c面平面図

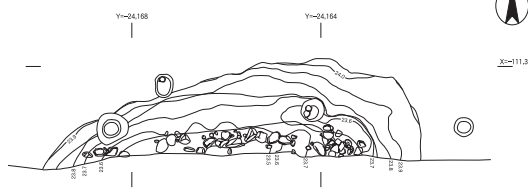
池 239



- 1 2.5Y4/1 黄灰色砂泥、やや砂っぽい
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色~5/2 暗灰黄色砂泥
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
- 6 2.5YR5/3 黄褐色砂泥

図 16. 1次調査土壙 174 実測図

池 252



調査区南壁断面図
(池 239・252 周辺)

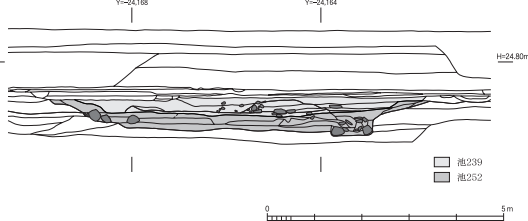


図 17. 1次調査池 239・256 実測図

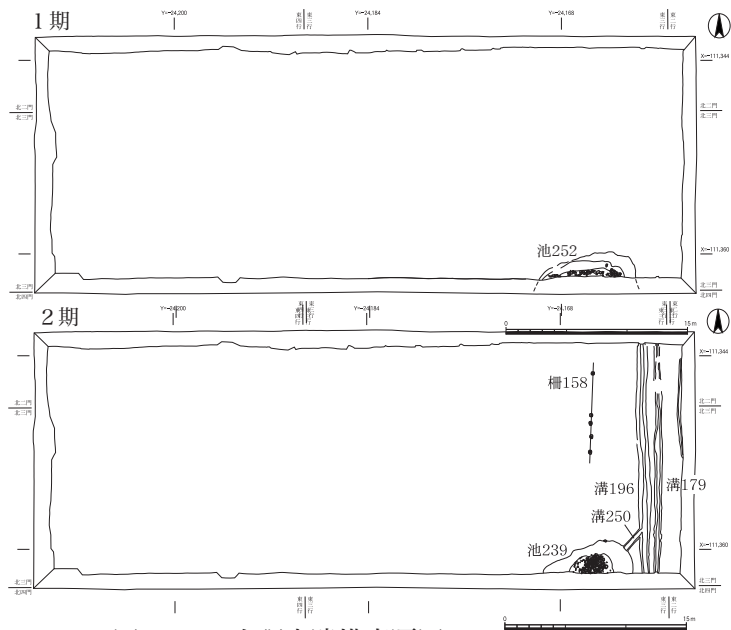


図 18. 1次調査遺構変遷図

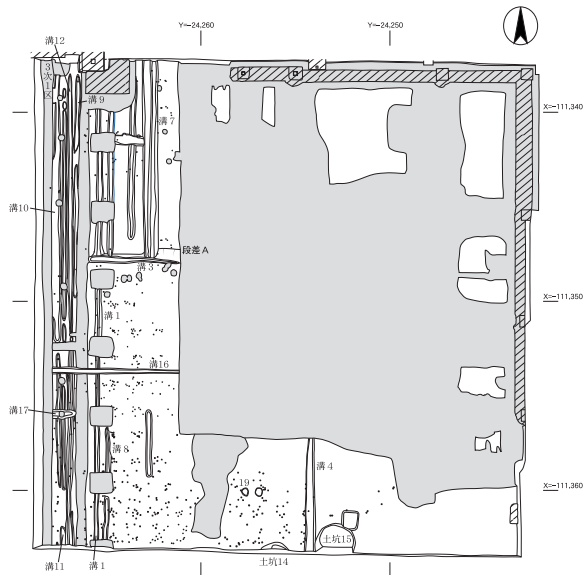


図19. 4次調査
第1面平面図

コンクリート
 雑乱

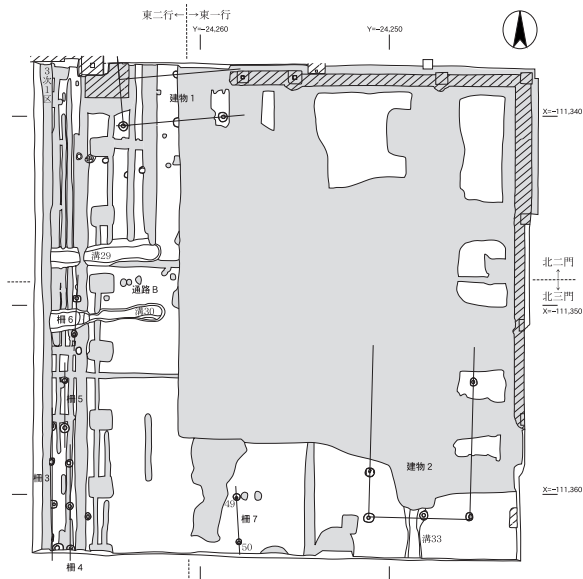


図20. 4次調査
第2面平面図

コンクリート
 雑乱

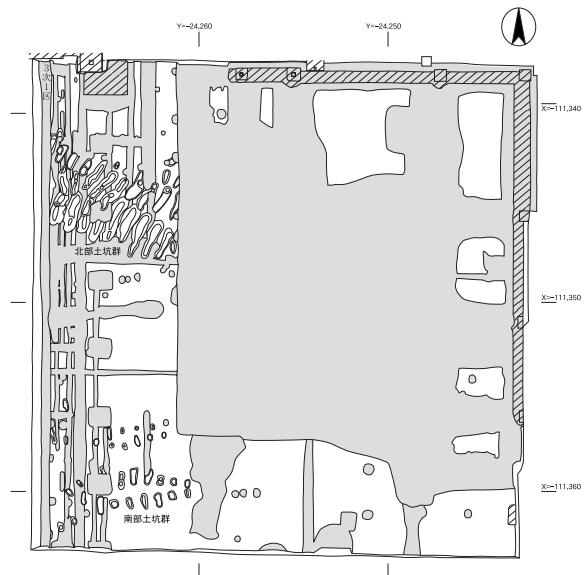


図21. 4次調査
第3面平面図

コンクリート
 雑乱

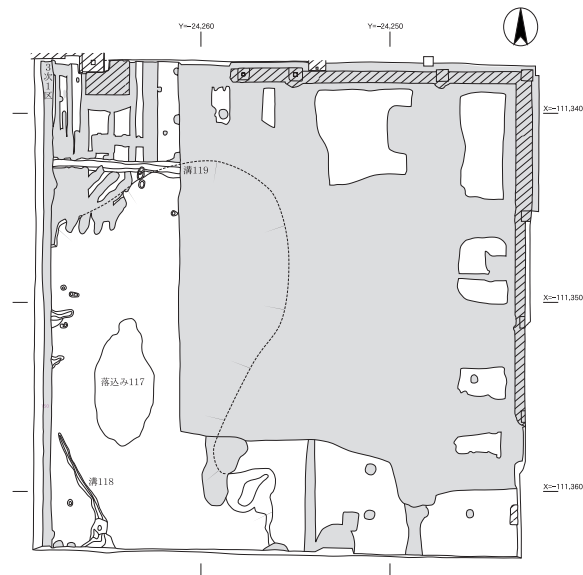


図22. 4次調査
第4面平面図

コンクリート
 雑乱

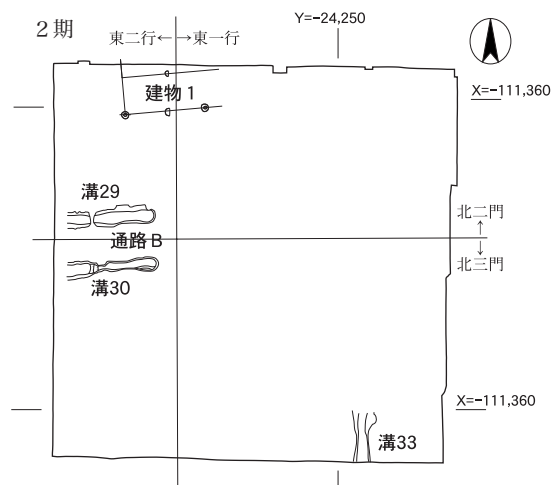
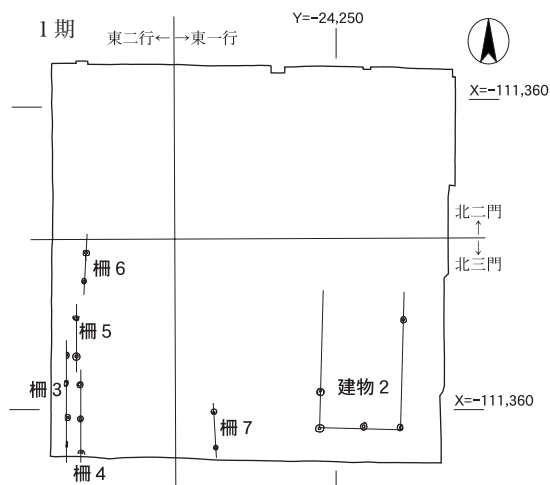


図23. 4次調査第2面遺構変遷図

0 20m

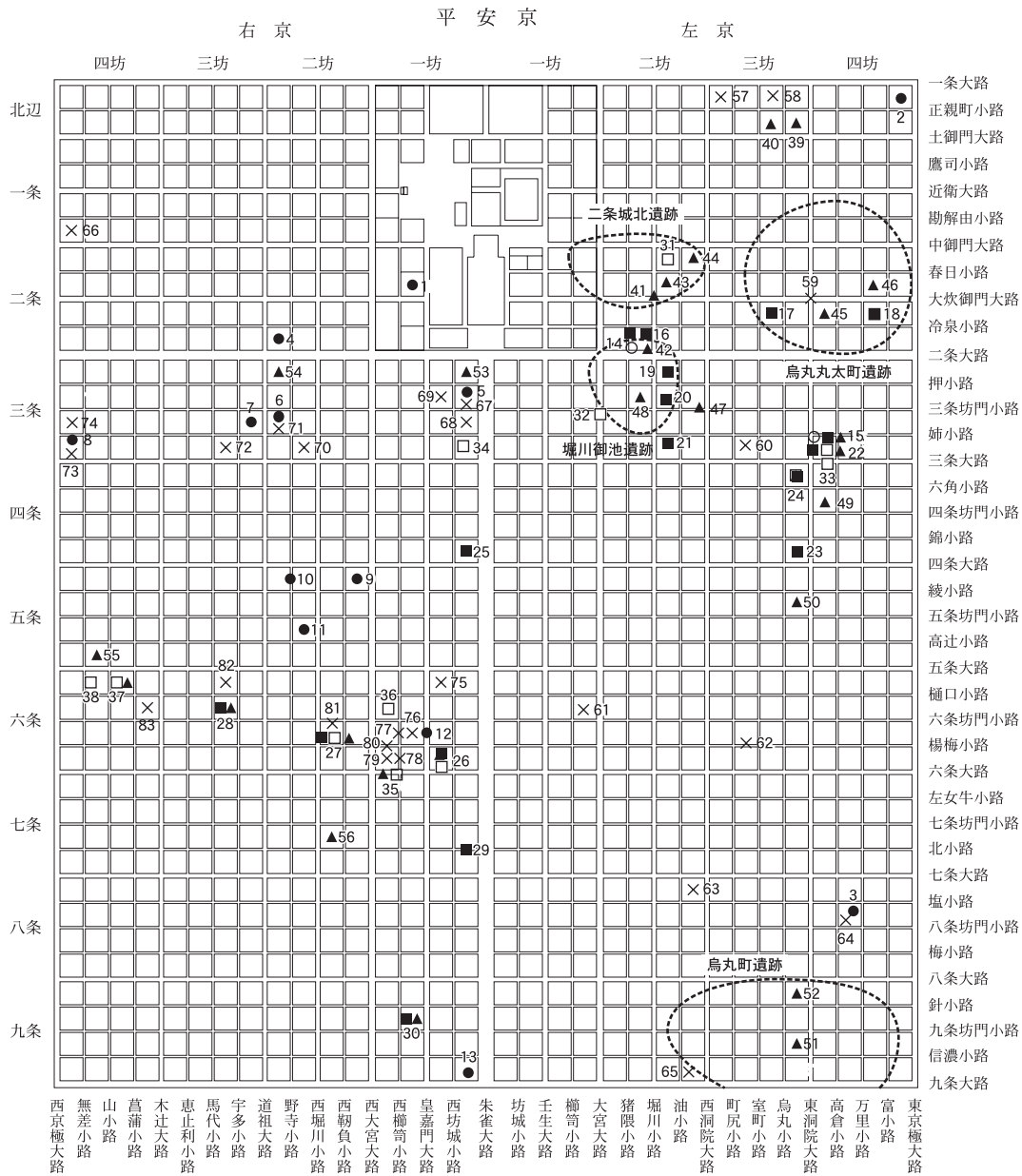


図 24. 平安京内における縄文時代以前の遺物検出地点

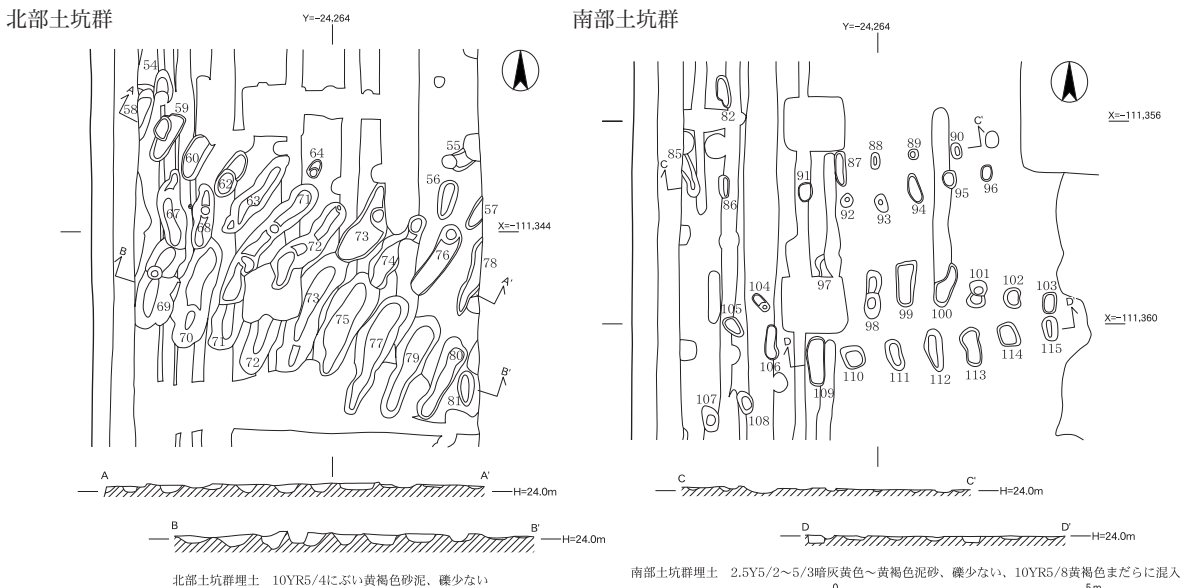


図 25. 4次調査不定形土坑群実測図

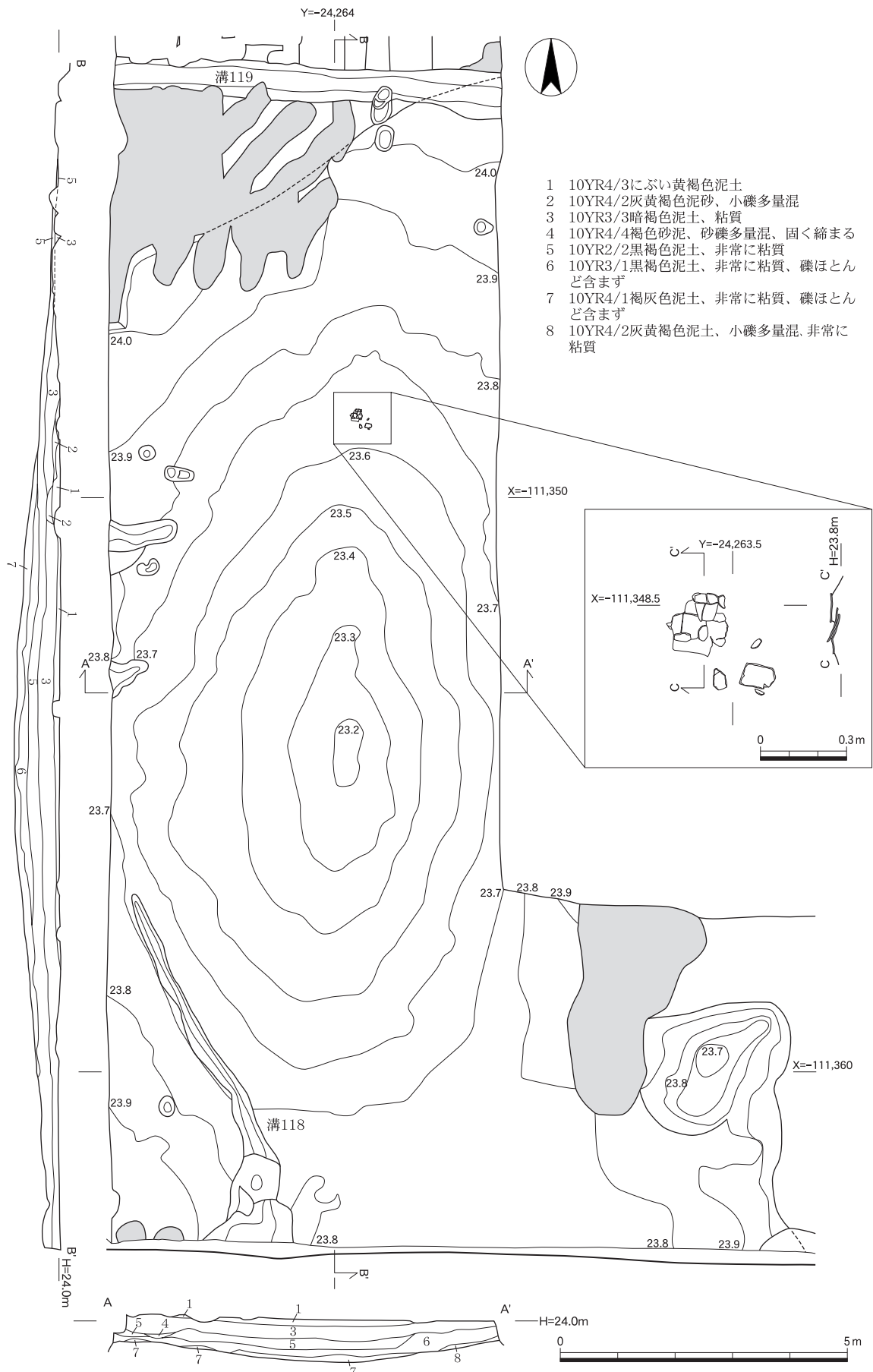


図 26. 4次調査落込み 117 実測図



図 27. 3次調査1区第1面平面図

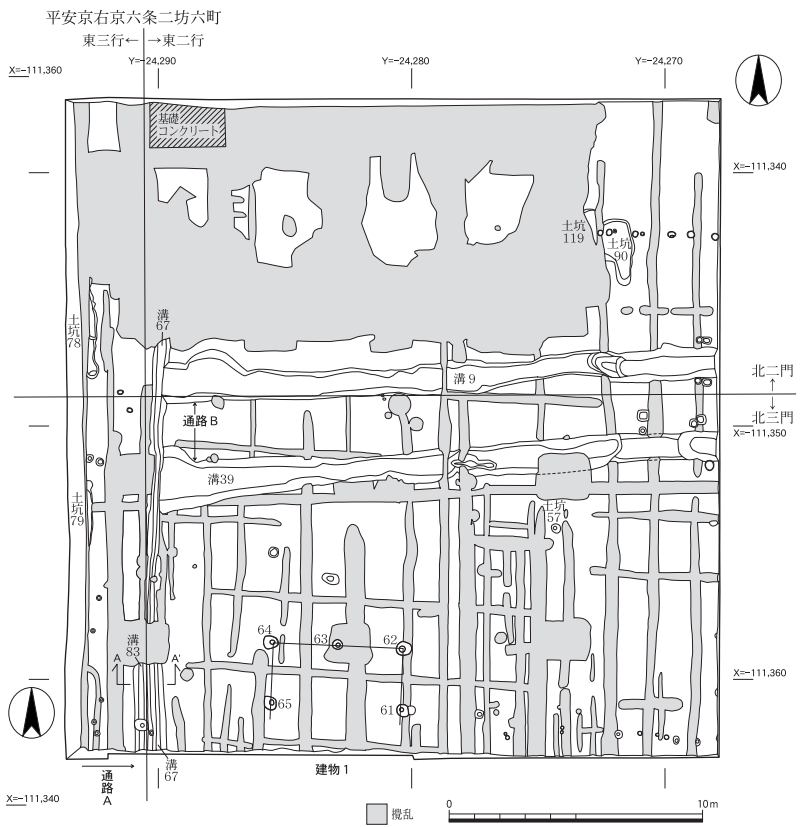


図 28. 3次調査1区第2面平面図

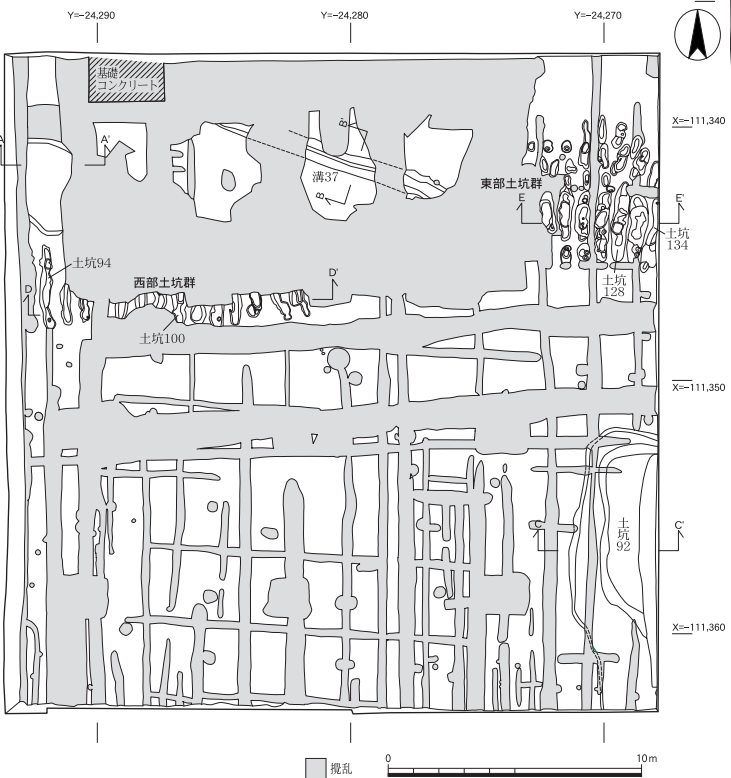
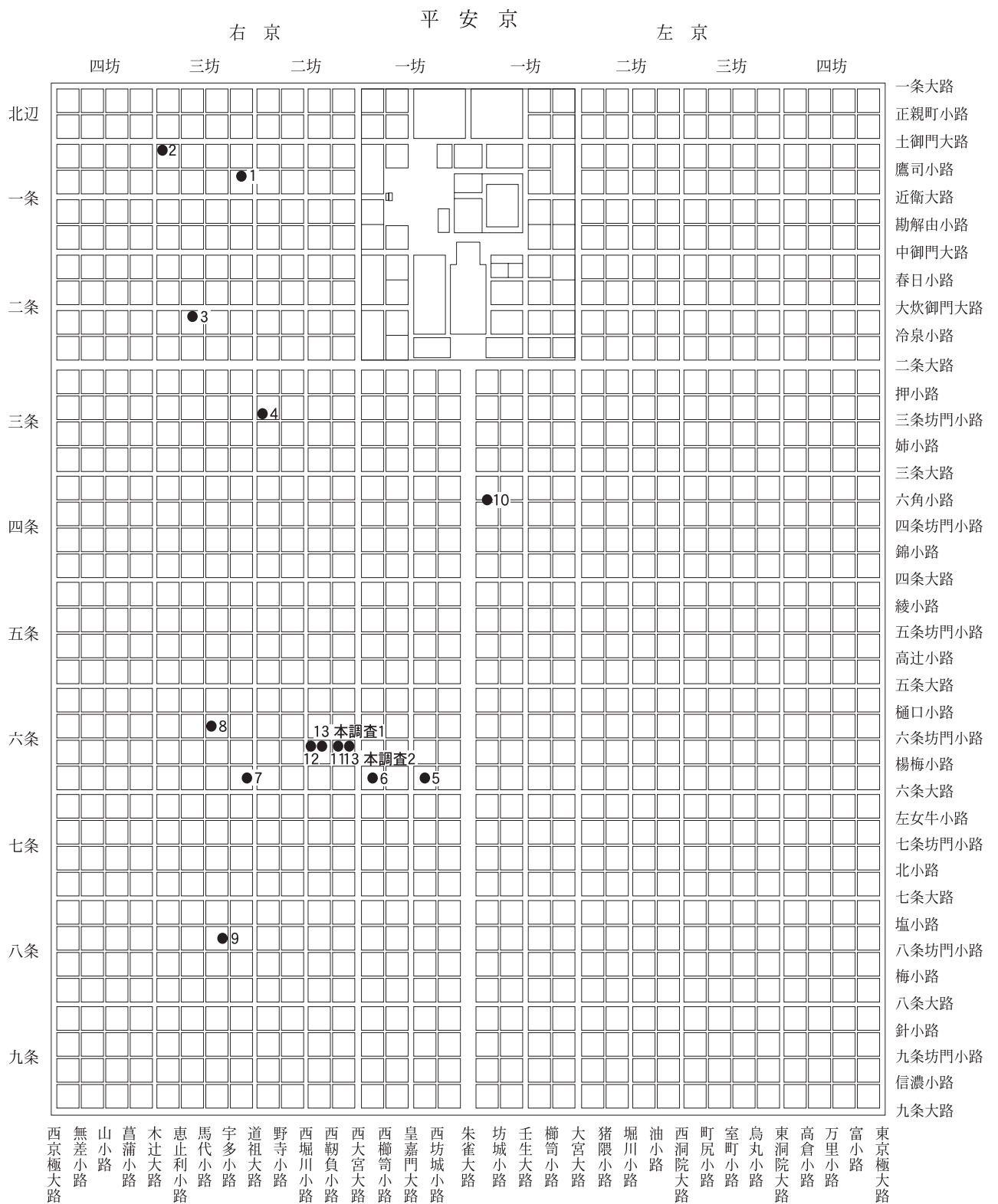


図 29. 3次調査1区第3面平面図



※調査地点の番号は表1の番号に対応する

図 30. 平安京内の小径検出地点

表1. 平安京内の小径検出地点一覧表

番号	遺跡名	所在地	東西分割	南北分割	溝心々間	道路幅	検出長	面する街路	概要	文献
1	右京一条三坊二町	中京区西ノ京御輿ヶ岡町1-2	○		3~4m	2~2.5m	南北20m	大路	町の東西中心に南北溝202、西約4mに南北溝96。橋の痕跡も確認。平安時代中期。	1
2	右京一条三坊十六町	右京区花園鷹司町113ほか	○		3.3~3.5m	2.5~3m	南北47m	大路	C区、町の東西中心に1号南北濠、東約4mに2号南北濠。北で土御門大路南側溝に続く。平安時代前期。座標未表記。	2
3	右京二条三坊十一町	中京区西ノ京小堀池町4-2ほか	○		2.5~2.8m	1.5~2m	南北19m	大路	町の東西中心に南北溝9、東2.5mに南北溝10。平安時代前期後半から中期。	3
4	右京三条二坊十五町	中京区西ノ京東中合町7		○	3.3~3.5m	2~2.3m	東西16m	大路	北六・七門境に東西溝118、南3.5mに東西溝117。平安時代前期後半から中期。	4
5	右京六条一坊五町	下京区中堂寺南町17ほか	○		4m	2.6m	南北7m	大路	東三・四行境界に南北溝F024、西4mに南北溝F023。平安時代前期。	5
6	右京六条一坊十三町	下京区中堂寺栗田町		○	3m	2m	東西31m	大路	町の南北中心に東西溝3、南3mに東西溝4。平安時代前期。	6
7	右京六条三坊四町	右京区西院溝崎町12ほか		○	3.2~4m	2~3.2m	東西23m	大路	町の南北中心に東西溝21、南4mに東西溝20。平安時代前期前半。	7
8	右京六条三坊七町	右京区西院追分町25-1、2	○		3.5~4.5m	2.5~3m	南北113m	小路	町の東西中心に南北溝5412、東約4mに南北溝5409。小径5408。溝は平安時代前期前半から4時期の変遷あり。	8
9	右京八条三坊七町	下京区七条御所ノ内西町68-1		○	3.2m	2.8m	東西7m	小路	町の南北中心に東西溝4、南約3mに東西溝5。平安時代前期、後期。	9
10	左京四条一坊一町	中京区壬生朱雀町8-2	○		2m	1.1m	南北15m	大路	町の東西中心に南北溝25・30。平安時代後期。平安前期には溝25の東2.5mに南北溝70あり。	10
11	右京六条二坊三町	下京区西七条東御前田町	○		-	-	南北19m	大路	町の東西中心に南北溝179。溝幅1.1m。東側溝は調査区外東。平安時代前期後半。	11
12	右京六条二坊六町	下京区西七条東御前田町、右京区西院南高田町	○	○	4.1m	2.5m	東西57m 南北19m	小路	2区、六町の北二・三門境界に東西溝3、南約3mに東西溝6（1区東西溝219）。六町の東西中心から西約3mに南北溝44。平安時代前期後半。	12
13	右京六条二坊三・六町	下京区西七条赤社町、西七条御前田町	○	○	3.3m	2m	東西38m 南北19m	大路・小路	1区、六町の北二・三門境界に東西溝9、南約3mに東西溝39。六町の東西中心に南北溝67。2区、三町の北二・三門境界に東西溝60、南約3mに東西溝58。三町の東西中央から東約3mに南北溝203。平安時代前期後半。	13

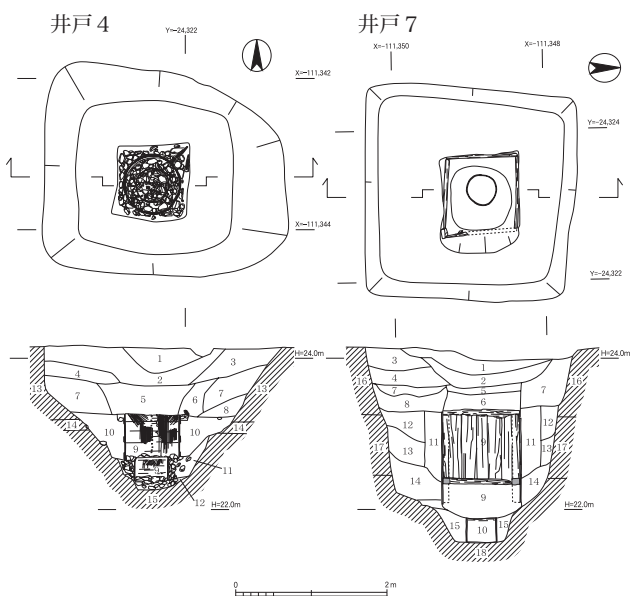


図31. 2次調査2区井戸4・7実測図

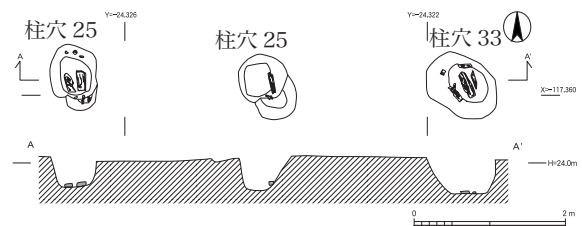


図32. 2次調査2区柱列2実測図

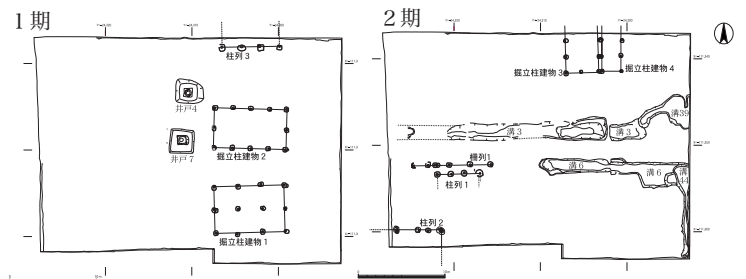


図33. 2次調査2区第2面遺構変遷図

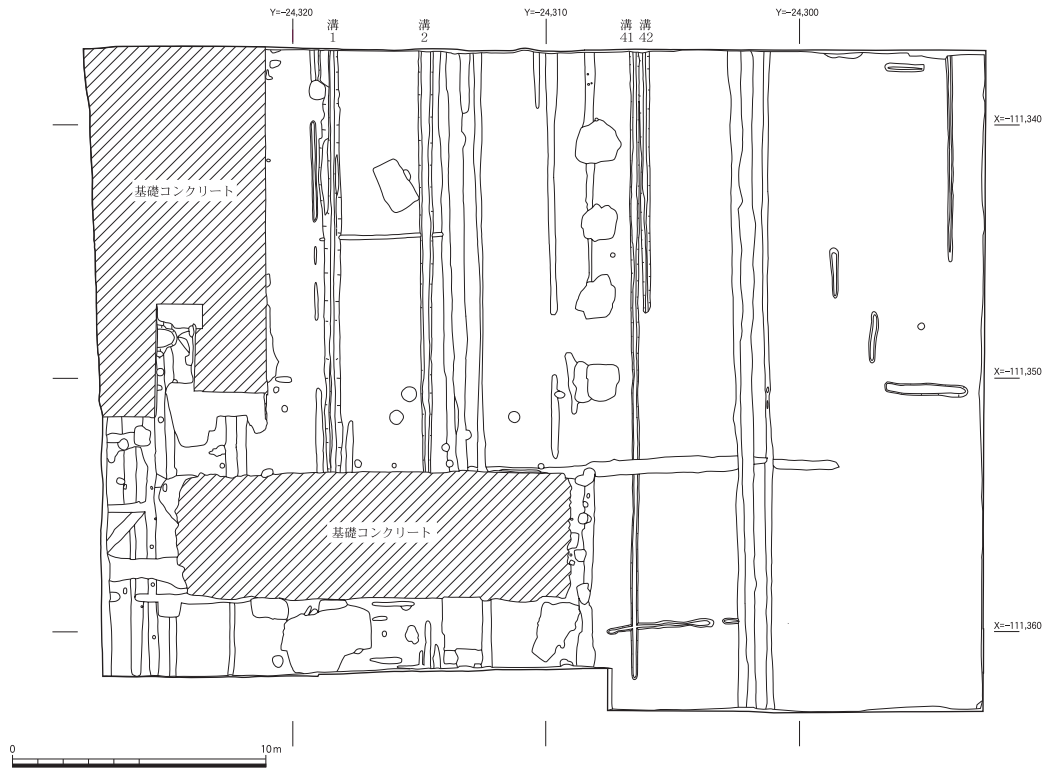


図 34. 2次調査2区第1面平面図

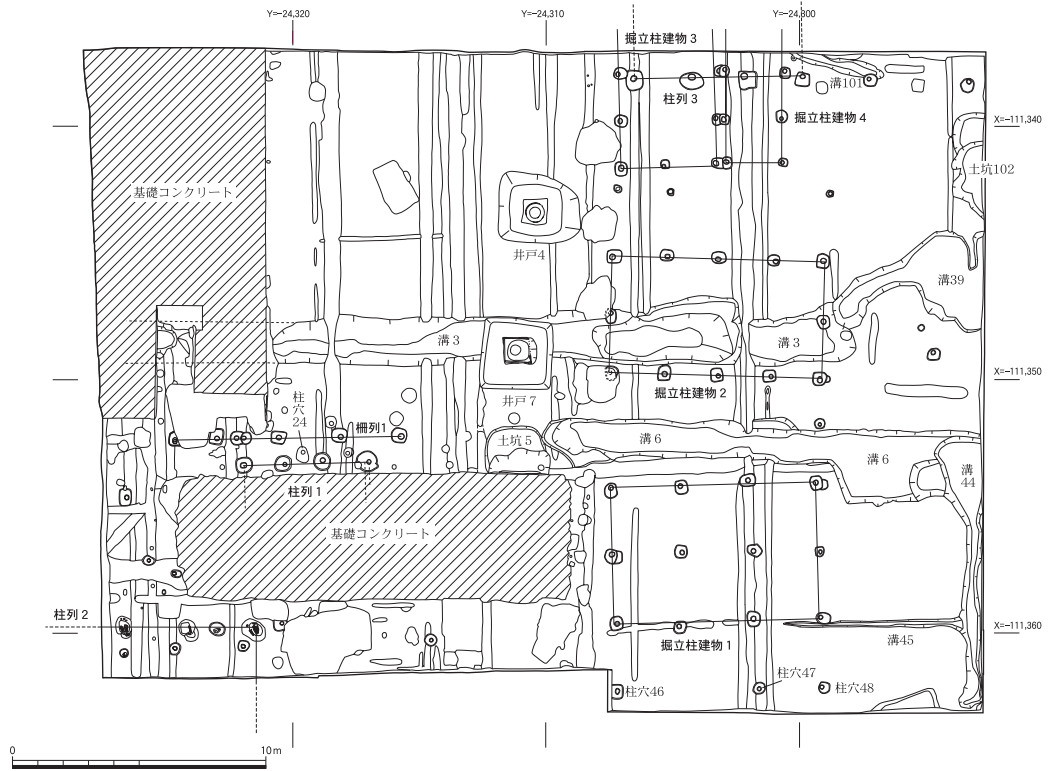


図 35. 2次調査2区第2面平面図

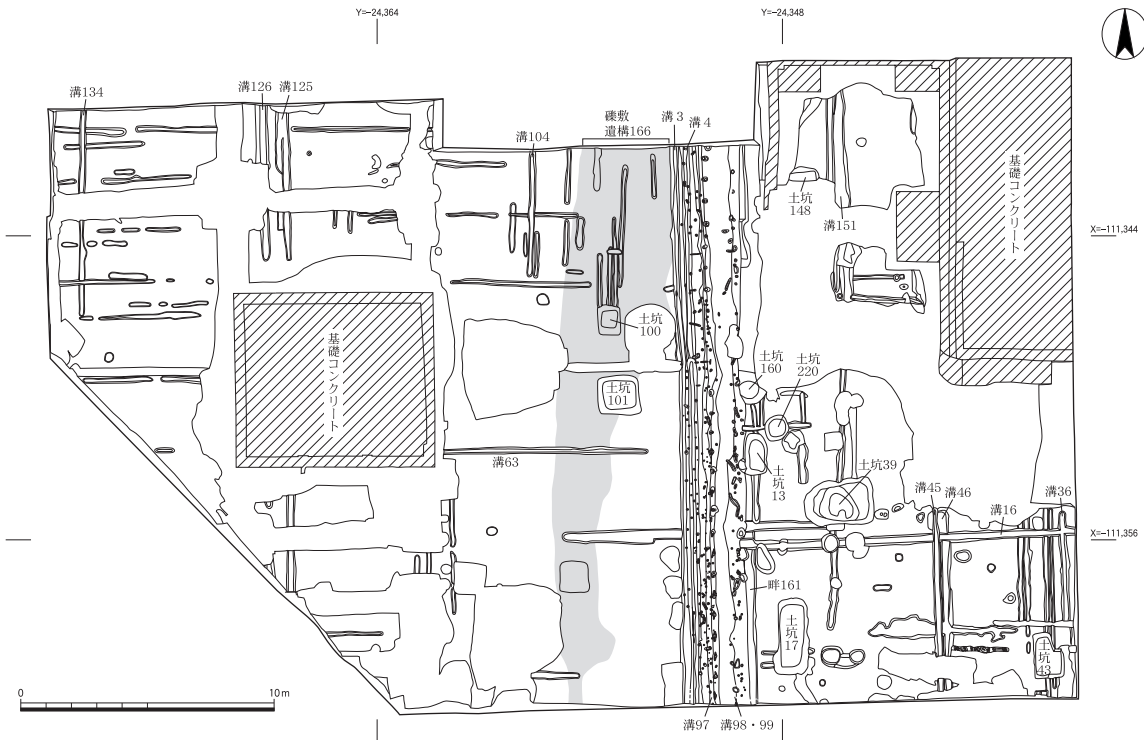


図 36. 2次調査1区第1面平面図

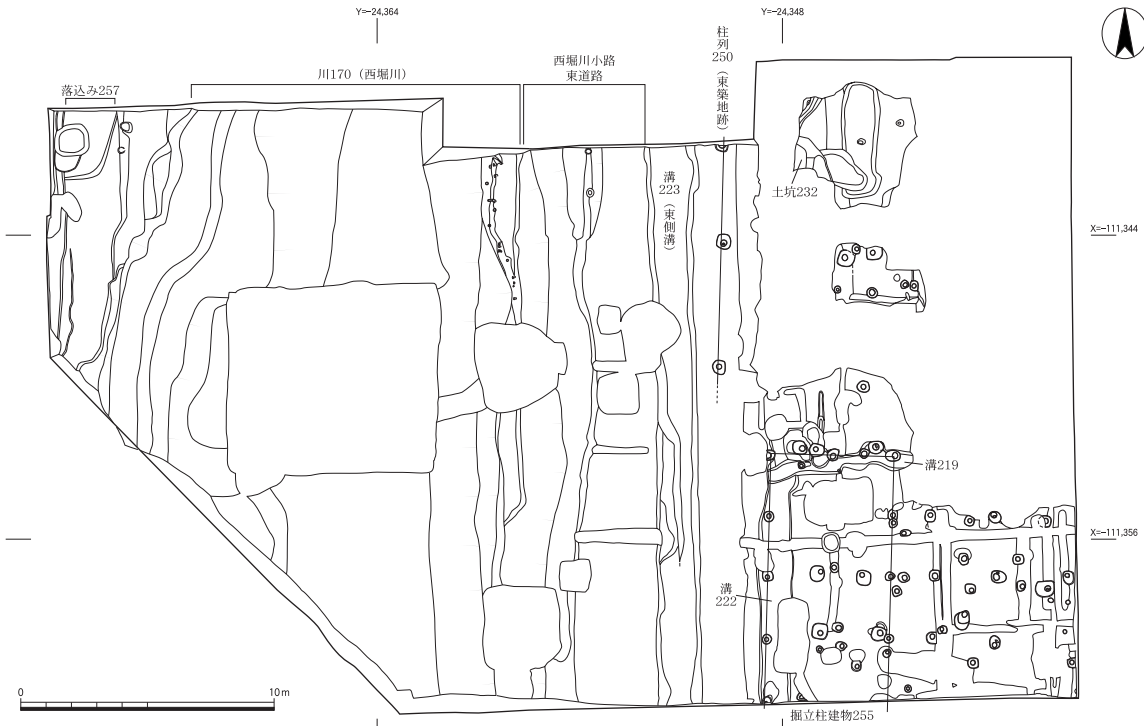


図 37. 2次調査1区第2面平面図

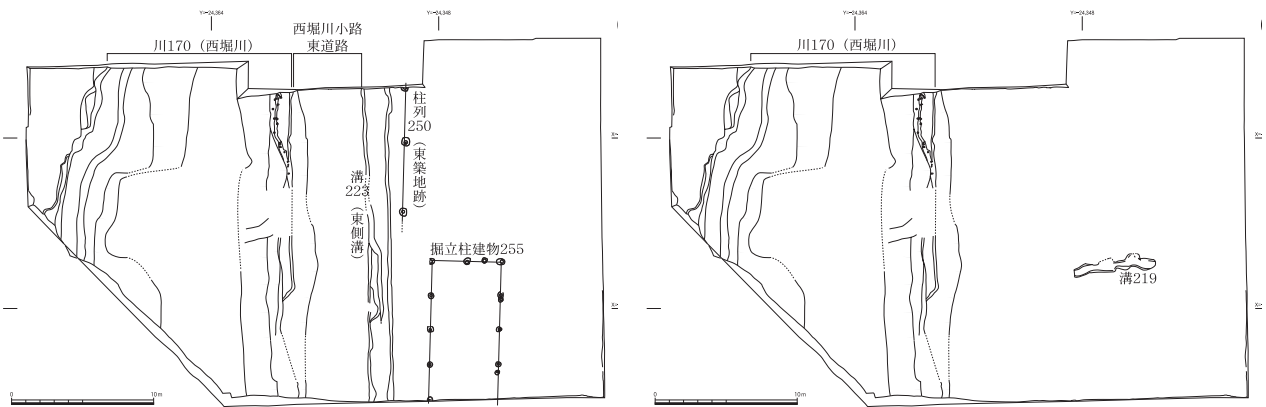
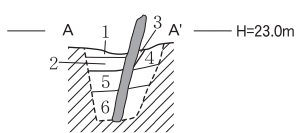
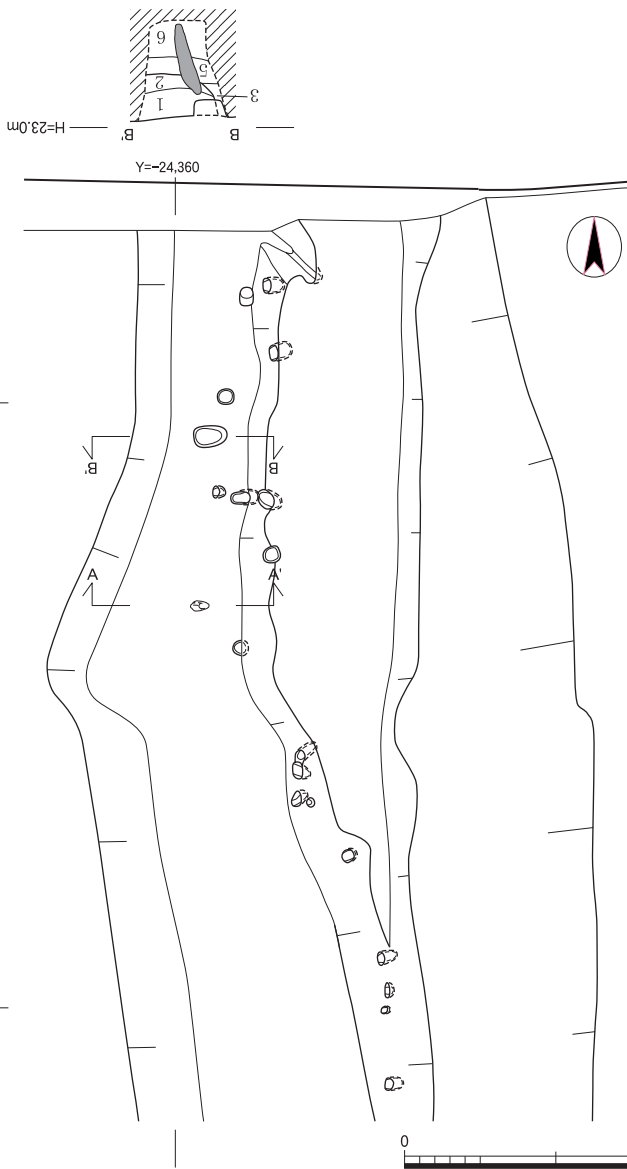


図 38. 2次調査1区第2面遺構変遷図



- 1 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫+7.5YR4/6褐色砂礫
- 2 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫
- 3 2.5Y4/1黄灰色泥土
- 4 2.5Y5/1黄灰色泥土
- 5 10YR4/2灰黄褐色砂礫
- 6 5Y5/2灰オリーブ砂礫+5YR3/6暗赤褐色砂礫

図 39. 2次調査1区河170東肩杭列実測図



図 40. 2次調査1区川170東肩杭列断面(西から)

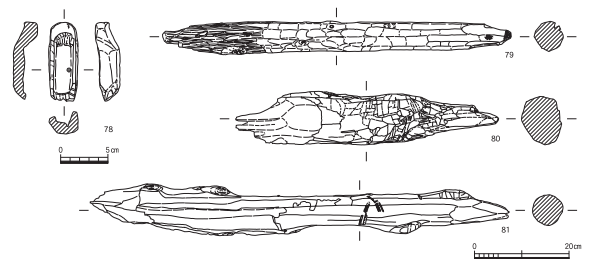
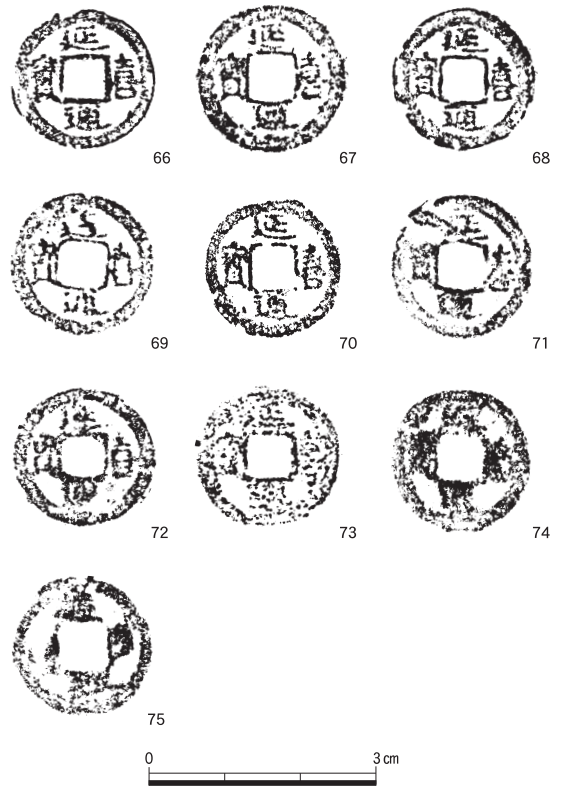


図 43. 2次調査1区出土木製品実測図



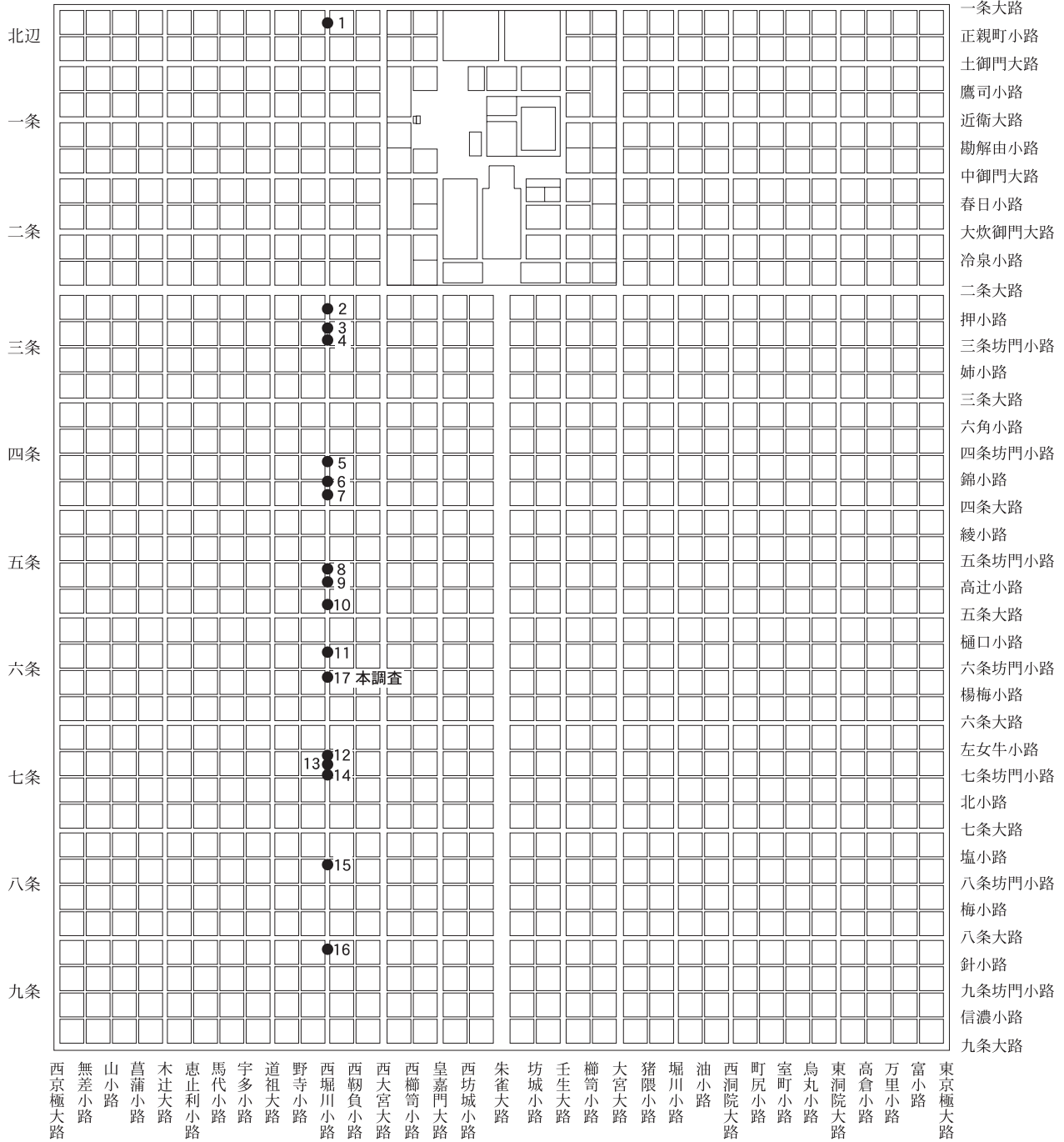
図 41. 2次調査1区川170東肩杭列(北から)

平安京

右京

左京

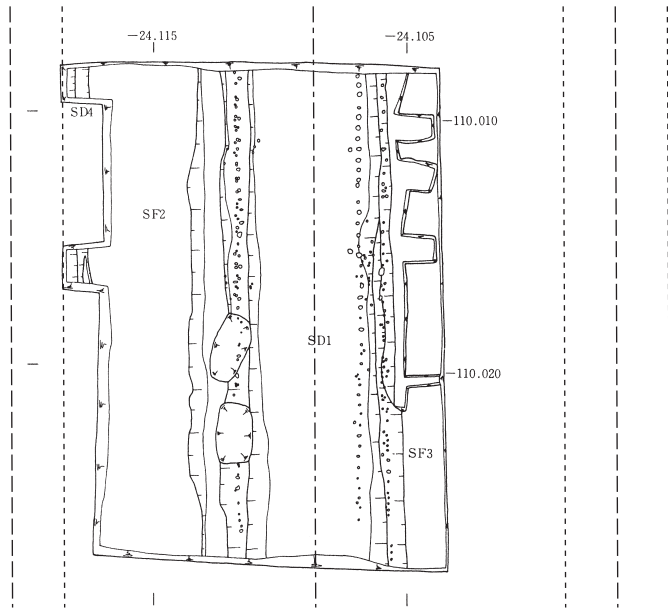
四坊 三坊 二坊 一坊 一坊 二坊 三坊 四坊



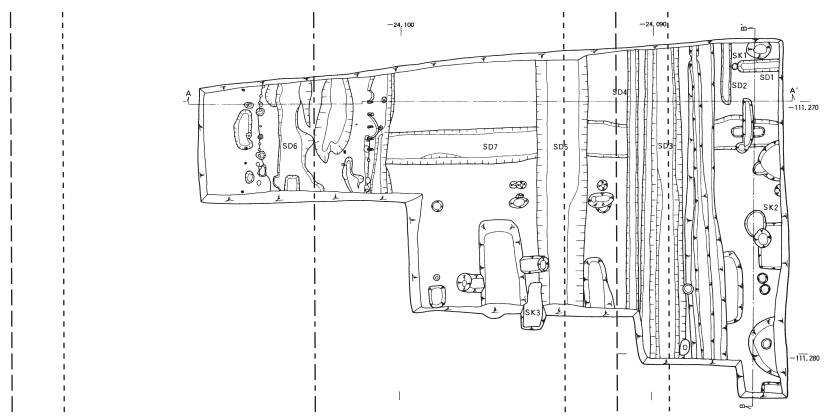
※調査地点の番号は表2の番号に対応する

図 44. 西堀川小路検出地点

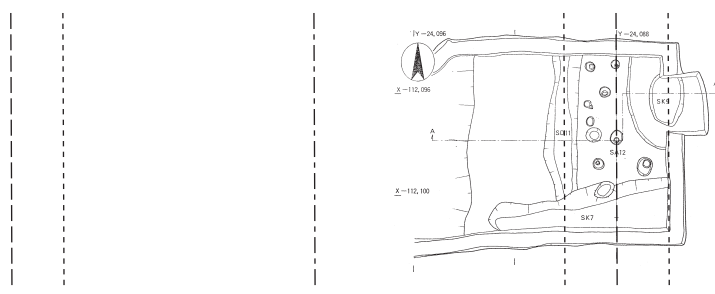
4. 1982年調査地
(右京三条二坊十町)



8. 1980年調査地
(右京五条二坊五町)



12. 1983年調査地
(右京七条二坊七町)



西堀川小路の横断模式図

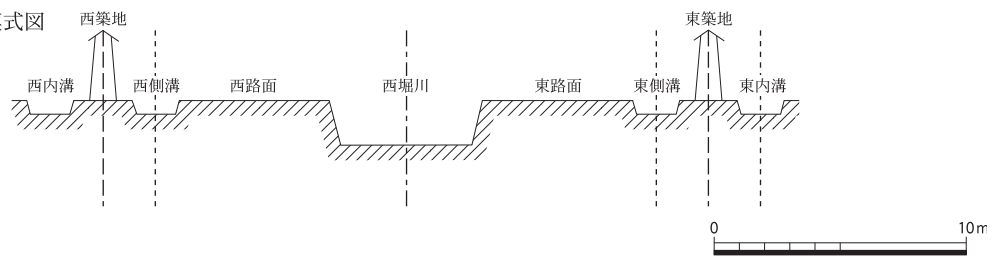


図 45. 西堀川小路主要検出例模式図 (1 : 300)

表2. 西堀川小路検出地点一覧表

番号	遺跡名	調査方法	所在地	調査期間	調査概要
1	北辺二坊	試掘	北区大將軍川端町27	1984.07.23	地表下1.6mで紙屋川の堆積。
2	三条二坊八・九町	立会	中京区西ノ京東中合町56～銅駝町56	1984.02.13～03.23	西堀川小路流路。地表下0.1mで灰褐色砂礫、暗灰色泥土の埋土。1.4mでも底には達しない。
3	三条一・二坊	立会	中京区西ノ京東中合町～西ノ京東月光町	1984.07.02～11.29	西堀川小路西側溝・西堀川検出。
4	三条二坊十町	発掘	中京区西ノ京原町64	1982.06.17～07.10	西堀川小路の堀川と、その両側の路面および西側溝。川幅約6m、深さ約1m、両岸と東側底部には杭跡が並ぶ。埋土は暗灰色や濃褐色系の泥土層と褐色の砂礫が交互に堆積。10世紀後半に埋没。西側路面幅は約6m。西側溝は深さ約1m。
5	四条二坊	立会	中京区壬生西大竹町他	1981.12.17～1982.03.31	西堀川流路埋土は、上層が褐色系の砂礫層、下層は灰色系の泥砂層となる。道祖川に流れるバイパスあり。
6	四条二坊十一・十二町	立会	右京区西院東淳和院町5-4他	1997.02.21～02.28	西堀川小路の西側溝、幅1.2m、深さ0.23m。西築地基底部、幅3m。築地内溝、幅1m、深さ0.43m。
7	四条二坊十二町	試掘	右京区西院東淳和院町5-4他	1996.9.18	西堀川小路西築地の内溝。西堀川は西側に大きく氾濫している。
8	五条二坊五町	発掘	中京区壬生西檜町8-9	1980.10.15～10.31	西堀川は、幅14.8m、深さ0.6～0.8m、浸食により広がる、当初は約6m。9世紀後半には機能、12世紀前半には埋没。
9	五条二坊十一町	立会	中京区壬生西檜町10	1991.09.21～09.26	地表下0.63m以下、平安前期から後期の流路堆積。
10	五条二坊、六条二坊	立会	右京区西院高山町～中京区壬生東高田町地先	1981.06.18～1982.03.31	西堀川小路の東側溝、幅1.3m、深さ0.3m。西堀川幅15.6m。川の東肩に角杭を打つ。西堀川は東西方向に溢れている。平安京造営以前の旧流路上に川が造成されている。
11	六条二坊七町	立会	中京区壬生東高田町4-1	1989.09.18	地表下0.74m以下、平安時代中期の流れ堆積。
12	七条二坊七町	発掘	下京区西七条西石ヶ坪40	1983.04.20～05.14	西堀川小路の側溝、東築地。平安後期～近世にかけて幾重にも堆積する西堀川の旧河川。
13	七条二坊十町	試掘	下京区西七条西石ヶ坪町38-1、2	1993.10.13	地表下0.8mで西堀川小路の西側溝。
14	七条二坊	試掘	下京区西七条西石ヶ坪町40	1982.03.16	西堀川とみられる東側への大きな落込み。
15	八条二・三坊	立会	下京区七条御所ノ内北町	1981.09.18～10.28	推定西堀川小路の西側には、灰色系泥土を埋土とする大規模な流路が広がる。
16	九条二坊九町	試掘	下京区七条御所ノ内南町98-1他	1994.07.11	地表下1.2mで西堀川小路の路面、側溝、西堀川を検出。
17	六条二坊六町	発掘	下京区西七条御前町～右京区西院南高田町	2006.03.27～08.03	西堀川小路の東築地・東側溝・東道路・西堀川を検出。西堀川は、幅14～16m、深さ約1.1m、西側に大きく広がる。9世紀後半には機能、12世紀代には埋没。